

一期一会

元気の種

四街道市南部総合福祉センターわろうべの里
センター長 秋庭 行雄

3年以上続いたコロナ禍により、以前の慣習や考え方、人との関わり方など、様々な面において‘変化’を余儀なくされ、今までの‘当たり前’が通用しにくい世の中となりました。今年の5月から新型コロナウイルスが感染症法の分類で5類に変更されたものの、ウイルスそのものが消滅した訳でもなく、また、社会的後遺症といってもいいような不合理な状況も、まだまだ残っているように感じています。

さて「わろうべの里」は「だれでも、いつでも、ひとりでも、子どもからお年寄りまで、ふらっと立ち寄り、心地よくつかえる場所にしよう」をコンセプトに、市内で2番目の総合福祉センターとして、平成15年にオープンしました。「わろうべ」とは、昔、和良比を「わろうび」と呼んだことと「笑うべ」をかけた言葉だそうです。私自身は、四街道市立中央小学校での勤務を最後に、令和3年度末に定年を迎えた後、縁あって「わろうべの里」にて、第二の社会人生活を送らせて頂くこととなり、今日に至っております。着任当初は、新型コロナウイルスの脅威が続いており、施設利用についての制限・制約も多く、声を上げて笑うことがはばかれるような閉塞感が漂っていました。我々職員も常に緊張感をもって、利用者の方に接していました。ただ、そんな中でも、赤ちゃんからご高齢の方まで、幅広い年齢層の方が、日々お越しになり、また、試験・受験の時期になると、中高生が椅子・テーブルのあるスペースで試験勉強に取り組んでいる姿が目立つようになるなど、徐々に人の出入りが増えていきました。中でも、館内にある‘児童センター’に遊びに来た子どもたちの楽しそうな声を聞き、いきいきとした姿を見られた時は、現役時代のよき思い出が蘇り「子どもたちから‘元気の種’をもらったなあ」と、前向きな気持ちが湧いてきました。卓球や工作、ゲームなど、思い思いにひとしきり遊んだ後、軽やかな足取りで家路につく子どもたちの心のポケットにも‘元気の種’が入っているように思えました。

更に、今年度に入ってから、教職員の研修会場としても復活しました。知り合いの先生方と久しぶりに笑顔で再会し、言葉を交わせるようになったことも‘元気の種’の一つです。直接対面でコミュニケーションが取れることがこんなにも嬉しい事なのかと、いい意味での驚きでした。

「わろうべの里」は公共施設ですから、一定のルールやマナーを守って頂く必要はありますが、子どもたちにとって‘安心して遊べる居場所’であるとともに‘元気の種’を生み出せる場所の一つであり続けたいと思っています。そして、一人一人の‘元気の種’が育ち、花開き、実を結び、元気が満ち溢れるような社会になって欲しいなあと思っています。

当センターでは子どもと保護者の悩み相談を受け付けています

四街道市青少年育成センター (月)～(金) 9:00～17:00

相談専用電話 043-423-0066 フリーダイヤル 0120-423-006

青少年育成センターへは市役所第二庁舎からも裏側通用口を利用して入ることもできます

令和5年冬の交通安全運動

12月10日(日)~12月19日(火)



スローガン

～飲酒運転は絶対にしない、させない、許さない～

運動の重点

- ① 飲酒運転の根絶
- ② 夕暮れ時と夜間の事故防止と安全運転意識の向上
- ③ 自転車等のヘルメットの着用と交通安全ルール遵守の徹底

この時期は様々な季節柄の行事が重なり交通事故やトラブルが増えます。主な交通手段に自転車を使用する小中高生にとって事故の被害者あるいは加害者にならないためにも、上記③の「自転車等のヘルメットの着用と交通安全ルール遵守の徹底」が重要です。その中に「ちばサイクルルール」という基本的な自転車に乗る前と乗車時のルールがあります。どのルールも基本中の基本ですが、冬休みに入る前のこの時期にもう一度各家庭でお子様と話し合っはいかげでしょうか？

ちばサイクルルール



「自転車に乗る前に」

- ① 自転車保険に入ろう
- ② 点検整備をしよう
- ③ 反射機材をつけよう
- ④ ヘルメットをつけよう
- ⑤ 飲酒運転はやめよう

「自転車に乗る時に」

- ① 道路の左側を走ろう
- ② 歩いている人を優先しよう
- ③ ながら運転はやめよう
- ④ 交差点では安全確認をしよう
- ⑤ 夕方からライトをつけよう

①**自転車保険に入ろう** 令和4年7月1日から、千葉県自転車条例で全ての自転車利用者に対する自転車損害賠償保険等への加入が義務化されています。事故時の経済的負担軽減のために自転車保険に加入しましょう。

④**ヘルメットをつけよう** 道路交通法の改正により、令和5年4月1日から全ての自転車利用者に対する乗用ヘルメットの着用が努力義務化されています。大切な命を守るためにヘルメットを着用しましょう。

箱根駅伝を読む



冬の夜長に部屋を暖かくして、正月の恒例行事になっている「箱根駅伝」をお先に楽しんではいかがでしょうか。「駅伝」がみんなに親しまれる理由がわかるかもしれません。

【風が強く吹いている】 著者 三浦しをん

箱根駅伝は大学の長距離ランナーの夢の舞台。そこに様々な個性を持つ選手が集まる弱小大学チームが挑戦します。がむしゃらに走る若者の姿に感動です。

【冬の喝采】 著者 黒木 亮

筆者は早稲田の名監督だった中村清さんの下、箱根を2度も走った経験を持つ長距離ランナー。自らの実体験を基にした自伝的小説。当時実在した高校と大学が登場し、リアルに箱根を楽しめる作品です。

○11月の相談活動 [35件]

電話	9	来所	26	訪問等	0
----	---	----	----	-----	---



5月にコロナが感染症第5類に移行し日常生活が戻ってきました。この一年間の育成センターの活動にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。良いお年をお迎えください。

青少年育成センター職員一同

○11月の不審者情報

不審者情報はありませんでした。

○令和6年1月の街頭補導予定 (13回)

9日(火) A	11日(木) D	12日(金) B	15日(月) E	16日(火) C	18日(木) D	19日(金) C
22日(月) B	23日(火) D	25日(木) E	26日(金) C	29日(月) E	31日(水) B	

A 7:30-8:30 B 10:00-11:00 C 14:30 - 15:30 D 16:30-17:30 E 17:30-18:30